

# 神奈川地学会 2025年度「神奈川の地学広場」プログラム

---

日時：2025年4月12日（土）

会場：神奈川県立生命の星・地球博物館 講義室（小田原市入生田499）

10:30-11:30 総会（神奈川地学会会員対象）

（総会終了後、開場）

11:35 研究発表会 開会のあいさつ・事務的連絡

○ 研究発表会

11:40-12:00 中学2年理科「気象」単元の実戦報告（一部）

野田 啓司（元中学校教員、現部活動指導員）

中学2年理科の気象分野の授業実践と新たな取り組み。

12:00-13:00 <昼食・昼休み・文献交換・展示の自由見学>

※文献交換会：持ち寄った文献類を無料で配布します。ぜひ、お持ち帰り用バッグ等をお持ちください。

○ 研究発表会

13:00-13:20 中学校理科の手作り教材の紹介

野田 啓司（元中学校教員、現部活動指導員）

自然科学部員作成の雲（10雲形）の展示型模型の紹介

13:20-13:40 2024年8月のモンスーン渦による神奈川県西部の豪雨災害

相原 延光（関東学院中学校高等学校地学部・NPOCWS理事）

2024年夏も猛暑であった。海水温の上昇は台風を北上させ、南太平洋のモンスーン渦も活発であった。台風第10号の影響とされている8月末の県西部の豪雨災害は、モンスーン渦の北上に伴うものである。

13:40-14:00 火山豆石は語る-その形状は成因を示し、その堆積物は崩壊しやすい-

相原 延光（関東学院中学校高等学校地学部）

火山噴火によって生じる細粒火山灰の凝集体を「火山豆石」といい、噴火様式の違いによって形状及び内部構造のタイプに分類される。露頭で観察し実体験した火山豆石を例にその魅力を紹介する。

<休憩> 14:00-14:10

**14:10-14:30 地学・防災教育の実践的イベントブースキットの開発**

**鷲山 龍太郎（神奈川地学会幹事、防災塾・だるま塾長）**

地震被害は、地盤による震度増幅、耐震性の低さから生じることから、必要な対策を、長周期地震動実験、地盤増幅実験、液状化実験、耐震化実験、家具固定実験で体験的に教育するイベントブースを紹介。

**14:30-14:50 忠魂碑に見る震災記録**

**一寸木肇（大井町教育委員会）**

大井町の忠魂碑に関東大震災時の記録が追刻されている事例を紹介する。

<休憩> 14:50-15:00

**15:00-15:20 釈迦堂切通に露出する鮮新統三浦層群中にみられる海底地すべりの痕跡**

**野崎 篤（平塚市博物館）・宇都宮正志（産総研地質調査総合センター）**

釈迦堂切通（鎌倉市）の三浦層群逗子層・池子層境界で岩相層序と石灰質ナノ化石層序を検討し、両層間で少なくとも20万年分以上の年代ギャップが認められた。これは約3.2 Maに三浦・房総両半島をまたぎ生じた海底地すべりによる可能性がある

**15:20-15:40 松島旧蔵別刷群：自然史博物館における研究者アーカイブズの可能性**

**田口 公則（神奈川県立生命の星・地球博物館）**

故松島学芸員旧蔵の別刷群と書簡を保存している。別刷交換を通じた研究交流を示す別刷群について、自然史博物館における研究者アーカイブズの可能性を探る。

**15:40-16:10 展示物を自由に見学、文献交換会**

**16:10 閉会の挨拶、開場の片付け**

**16:25 撤収終了**

**17:45 懇親会（小田原駅周辺にて開催）**

---